



キッチンから、笑顔をつくろう



株主のみなさまへ

第57期 中間報告書

平成21年4月 1日から
平成21年9月30日まで

証券コード 7955

株主のみなさまへ

厳しい事業環境の中、
黒字転換を果たすことが
できました。



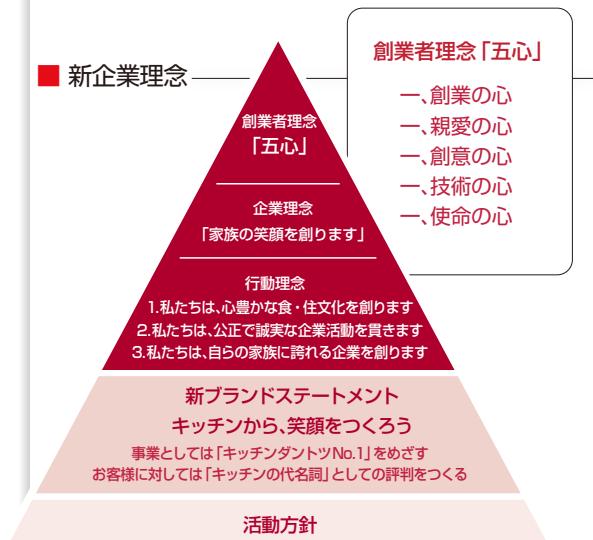
代表取締役社長

井上 強一

クリナップの新企業理念

クリナップは、創業60周年(2009年10月)を契機に、『第二の創業』に向けた新たな一歩を踏み出すべく、新企業理念を年初1月に策定いたしました。これは、創業以来の精神を受け継ぎながら、時代の転換期に対応した大胆な変革を推し進めていくための、新たな経営のガイドラインです。

■ 新企業理念



■ クリナップの中長期ビジョン



【新ブランドステートメント】
キッチンから、笑顔をつくろう

2010年3月期 上半期 連結決算ハイライト

- 売上高は前年同期比 10.5%減となり
期初予想を下回る結果となりました。
- 営業利益は収益体質への変革の取り組みが効果を
発揮し、黒字転換を果たすことができました。
- 各製品セグメントにおいて、
業界シェアの順調な回復が進んでおります。



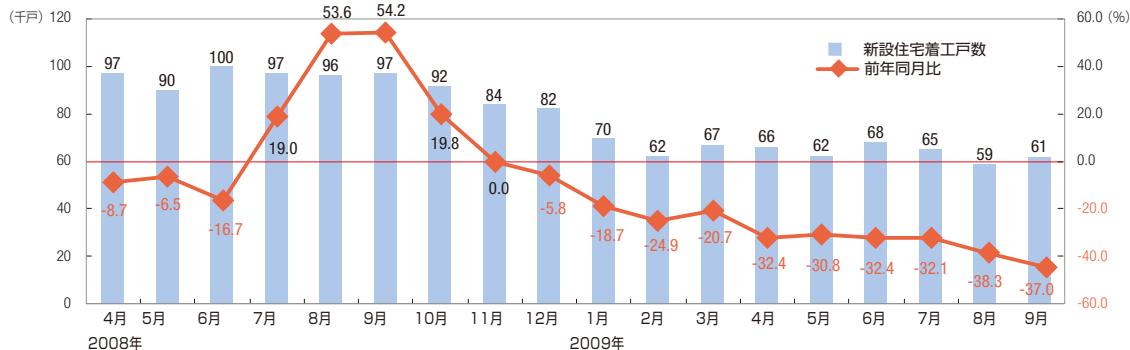
当上半期の新設住宅着工戸数は前年同期比30%以上のマイナスで推移する厳しい状況となっております。

2007年の不動産不況からの回復の兆しが見えつつあった昨秋、米国発の世界同時不況の影響から、住宅産業界は2008年10月以降再び不況の波に晒され、当上半期の新設住宅着工戸数は前年同期比30%以上のマイナスで推移し、いまだ底の見えない厳しい状況となっております。加えて、長引く不況は生活防衛意識を高め、消費マインドが極端に低迷する中、潜在的なリフォーム需要

の顕在化を阻む状況が続いております。

このように、当社を取り巻く事業環境はかつてない厳しい状況下に置かれております。しかし、この厳しさは、ほぼ全産業・全企業が置かれている共通の環境であり、その中での取り組みの違いが今後の企業間格差を生み出してくるものと思われま

■ 新設住宅着工戸数の推移



厳しい事業環境を反映して減収となったものの、これまでの経営改革の成果が表れ、営業黒字を回復しております。

当社は、この数年間の取り組みにおいて、創業以来決して変わる事のない品質重視のモノづくりを基礎に、事業環境の変化を捉えた経営体制の再構築を推し進めてまいりました。そうした中、当期は経営基本方針として、

1. 利益体質への変革

2. 付加価値創造による利益確保

の2つを掲げ、全社一丸となった取り組みを行っております。この成果として、当第2四半期累計期間の連結業績は、厳しい事業環境を反映して減収となったものの、営業黒字を回復することができました。

この2つの経営基本方針は、取り組み内容としては3～4年前から追求してきたことです。当期からの取り組みがいよいよ総仕上げの段階に入っていくことから、改

株主のみなさまへ

めて方針として明確化し、全社員の意識と行動のベクトルを結集することで、より高い成果を獲得していかうと企図しております。

第一の方針「利益体質への変革」は、「販管費の徹底削減」、「戦略的人員配置と拠点設置」を具体的な施策として展開しております。当第2四半期累計期間において

は、主に、原価低減および原材料の値下がりなどによる原価率の低下と、徹底したコスト削減による経費の圧縮などの効果により、前年同期の営業損失6億6百万円に対し、13億62百万円の営業利益計上に繋げることができました。

中期的に推し進めてきた「付加価値創造」の各種取り組みが、確かな成果を出し始めております。

第二の方針「付加価値創造による利益確保」では、「主力商品の付加価値創造」と「より顧客目線からの付加価値創造」を展開しております。具体的には、「家族の笑顔」をブランドコンセプトとした商品開発、エンドユーザーへの提案性を重視した販売チャネルの開拓と活性化、そして、エンドユーザーに対するダイレクトなメッセージ訴求を通じた「クリナップ」ブランド・ロイヤルティの向上など、これまで推し進めてきた施策をさらに強化し、効果の最大化を図ってまいります。

商品開発面では、2008年3月期より高級タイプから普及タイプまでの全商品の魅力を高め、“The Kitchen Company”としての総合的な品揃えの充実に取り組んできました。その過程で、主力の「クリナップ」の魅力がエンドユーザーから見て不明確な状況となったことから、2009年6月に全面リニューアルして新たに発売を開始いたしました。この効果は顕著に表れ、中・高級タイプのシステムキッチンシェアを押し上げる結果となっ

ております。

販売チャネルとしては、リフォーム需要に対応した「水まわり工房」会員店(約1,200店)とのパートナーシップの強化、体感型料理教室の実施など自社ショールームの最大活用、2009年3月に新設した「リテール事業開発部」を中心とした需要創造型の営業活動などにより、引き続き販売機会、エンドユーザーとの接点の強化・拡大に努めてまいりました。

さらに、新たなコミュニケーション施策として、2009年5月にブランドマガジン「Smile Idea」(スマイル アイデア)を発刊し、ブランドステートメント「キッチンから、笑顔をつくろう」のメッセージ訴求と、これを通じたブランド価値向上を図っていきたくと考えております。

下期以降も、非常に厳しい事業環境下での経営が続くことが予想されますが、株主のみなさまにおかれましては、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

特集：システムキッチンにおける当社の業界シェア



“The Kitchen Company”として

各クラスの商品力強化により
業界シェアが順調に回復しています。



当社は、キッチンのリーディングカンパニーとしての業界ポジションを改めて強固なものとするべく、2008年3月期より“**The Kitchen Company**”としての総合的な品揃えの強化を計画的に実施してきました。「家族の笑顔」をグランドコンセプトに、各タイプに求められる機能性をふんだんに備えた商品に仕立て上げることで、非常に競争力の高いラインナップが完成してきました。

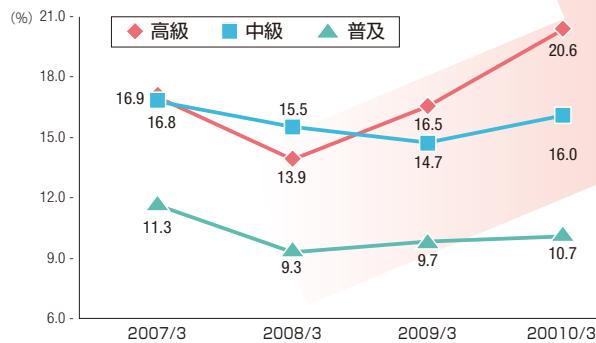
その結果、下のグラフが示すとおり、当社のシステムキッチンは、高級・中級・普及の全タイプにおいて、業界シェアを高めております。特に、高級タイプでは、2007年9月の「S. S.」の全面リニューアル、2008年5月の「S. S. ライトパッケージ」の新発売などの効果が十分に表れ、2008年3月期に13.9%まで落ち込んでいたシェアが、当第2四半期累計期間においては20.6%まで向上してきました。

今後、中・高級タイプの「クリンレディ」の全面リニューアル効果を見定めながら、ラインナップの継続的な魅力アップに取り組み、シェアの維持・向上に努めてまいります。



*イメージ写真は、全面リニューアルしたシステムキッチンの主力商品「クリンレディ」（2009年6月1日より新発売）

■ システムキッチンにおける業界シェア推移



主なトピックス

新商品関連 ①

コンパクトキッチン「コルティ」



対面式

コンパクトキッチン「コルティ」を 全面リニューアルし、6月1日より新発売。

普及タイプのブランドとしての役割を担うコンパクトキッチン「コルティ」を、このほど全面リニューアルし、2009年6月1日より新発売いたしました。新コルティは、ブランドステートメント「キッチンから、笑顔をつくろう」を実現するため、「小さくても、うれしい」をコンセプトに、コンパクトながら基本的な使い勝手や性能を“ギュッ”と詰め込んだキッチンとなっております。

新たなアイテムとして、インテリア性を高める「人工大理石ワークトップ」や「ライン取手」を採用し、付加価値の高い商品に仕上がっております。

新商品関連 ②

バスルーム「hairo [はいろ]」

「hairo [はいろ]」が、システムバスルームでは 初めてのキッズデザイン賞を受賞。

2009年3月に発売を開始したバスルーム新商品「hairo [はいろ]」が、2009年8月、「第3回キッズデザイン賞／金賞（経済産業大臣賞）」を受賞しました。これは、システムバスルームとしては初めての受賞となります。

同商品は、小学生未満の子供を持つパパ・ママ1,000人に実施した「生活感アンケート」と「おふろアンケート」の結果をもとに開発したもので、小さな子供との入浴を考えた5つの機能が新設されています。今回の受賞では特に、入浴時に親は子どもに背中を向けて身体を洗わなければならない、という生活常識を、逆転の発想で解決した提案性が高く評価されました。



新商品関連 ③

洗面化粧台「Tiaris [ティアリス]」

インテリア性と機能性を備えた洗面化粧台の新シリーズ 「Tiaris [ティアリス]」を9月1日より新発売。

当社は2009年9月1日より、中級価格帯に属する洗面化粧台の新シリーズ「Tiaris [ティアリス]」を発売しました。同商品では、新開発の素材「アクリストンクオーツ」（アクリル人工大理石）を採用し、水晶のような透明感と天然石のような奥行きのある柄を持つ美しいカウンターとなっております。また、洗面ボールを片側に寄せることで、カウンターに便利な作業用スペースを生み出すとともに、広い収納を実現したキャビネットを設置するなど、従来品に比べ機能性も大幅にアップしております。





コミュニケーション関連 1 ブランドマガジン「Smile !idea」

コーポレートブランドの強化に向け、 ブランドマガジン「Smile !idea」(スマイル アイデア) を発刊。

当社は、コーポレートブランド強化策の一つとして、企業活動を広く社内外に告知するブランドマガジン「Smile !idea」(スマイル アイデア) を5月22日に発刊しました。創刊号では「社会との接点」という副題のもと、当社の企業活動の中から、社会性・文化性・伝統性・技術性、そして笑顔の接点という切り口から掲載テーマを選択しています。

配布対象として、一般のお客さま、お取引先・株主・メディア関係のみなさま、学生のみなさまなど幅広い層を想定しており、当社が主催・参加する各種イベント、全国のショールーム、営業所、大学などで無料配布していきます。なお、発行は、2009年は5月・11月の2回、来年度以降は年1回の発行を予定しております。



コミュニケーション関連 2 家族の笑顔キャンペーン

創業60周年記念「家族の笑顔キャンペーン」で、 1,022通のエッセイの応募があり、18作品が入賞。

創業60周年を記念した「家族の笑顔キャンペーン」において、『私の家族の小さな大きなあわせ』をテーマにエッセイを募集しました(募集期間：2009年3月1日～5月31日)。その結果、1,022通に及びエッセイのご応募をいただきました。

これを受けて当社では社内外の審査員による審査を経て、「家族の笑顔大賞」1作品を含む18作品の入賞を決定させていただきました。



入賞作品は、当社ホームページ「<http://www.cleanup.co.jp/>」
「エッセイ結果発表」にて掲載しております。

自己株式関連

機動的な資本政策の遂行を目的に 自己株式を取得。

当社は、2009年5月11日開催の取締役会において、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を目的として自己株式の取得を決議し、以下のとおり実施しました(東京証券取引所の自己株式立会買付取引(ToSTNeT-3)による買付け)。

取得期間	取得した株式の総数	取得総額
2009年5月12日 ～ 2009年5月13日	1,200,000株	596,400,000円

連結ハイライト情報／連結セグメント情報

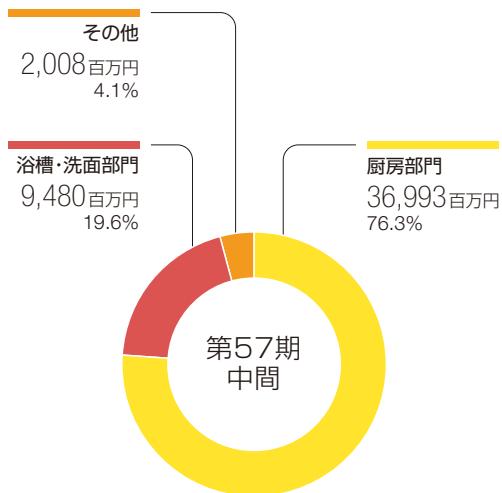
■ 連結財務ハイライト

(百万円)

	第55期中間 平成20年3月期中間	第55期 平成20年3月期	第56期中間 平成21年3月期中間	第56期 平成21年3月期	第57期中間 平成22年3月期中間
売上高	54,759	112,811	54,193	109,205	48,482
営業利益(損失:△)	△ 306	△ 1,301	△ 606	△ 1,100	1,362
経常利益(損失:△)	△ 352	△ 1,382	△ 652	△ 1,163	1,278
当期純利益(損失:△)	△ 740	△ 3,078	△ 1,020	△ 3,317	1,134
総資産	84,276	79,897	80,817	76,101	75,902
純資産	59,074	55,892	54,338	51,264	51,675

■ 部門別売上高(連結)

(百万円)



	第56期中間 平成21年3月期中間	第56期 平成21年3月期	第57期中間 平成22年3月期中間
厨房部門	41,190	85,131	36,993
浴槽・洗面部門	10,721	19,614	9,480
その他	2,281	4,459	2,008
合計	54,193	109,205	48,482

厨房部門の主な商品

高級品クラスの「S. S.」シリーズ、中・高級品クラスの「クリンレディ」シリーズ、普及品クラスの「ラクエラ」、マンション向けシステムキッチン、セクショナルキッチン等で構成されております。

浴槽・洗面部門の主な商品

中・高級品クラスのシステムバスルーム「アクリア」、普及品クラスの「hairo [はいろ]」等の浴槽関連商品と、洗面化粧台等で構成されております。



第57期中間の営業概況

市場環境

当第2四半期連結累計期間の日本経済は、昨年秋の米国金融危機に端を発した世界的な景気後退の影響を受け、企業収益の大幅な落ち込みや雇用情勢の悪化が続き、個人消費も低迷する状況で推移いたしました。

当社が所属する住宅設備機器業界においても、新設住

宅着工戸数が前年同期の低水準をさらに下回り、所得減少や生活不安の影響から、リフォーム需要も低調なまま推移したことから、システムキッチン、システムバスおよび洗面化粧台とも、前年同期の出荷数を大きく下回る結果となりました。

業績・成果

このような状況の中、当社は、2009年4月より、システムキッチン「S. S. ライトパッケージ」の価格を10万円値下げし、お求め安さの向上を図りました。また、2009年6月には、システムキッチン「クリンレディ」に新機能“うきうきポケット”を標準装備し発売いたしました。さらに同月、コンパクトシステムキッチン「コルティ」を全面リニューアルし、2009年9月には新素材によるカウンターとボールを採用した洗面化粧台「Tiaris [ティアリス]」を新発売いたしました。

販売面では、当社の会員登録制組織である「水まわり

工房」に加盟する会員店および地域の有力店、さらにリフォーム需要獲得に注力する各企業との連携を強め、全国ショールームの活用を中心とした様々なフェアの実施を通じて、売上の拡大に努めてまいりました。

生産面では、引き続きVE活動を推進し、原価低減に努めました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比10.5%減の484億82百万円となりました。

第57期第2四半期連結累計期間の部門別の状況

厨房部門では、システムキッチン、セクショナルキッチンとも数量シェアは向上したものの、主力の「S. S.」および「クリンレディ」とも、数量、金額で、前年同期比二ケタ超の減、普及品クラスのシステムキッチンは、数量、金額とも前年同期を上回りました。この結果、厨房部門の売上高は、前年同期比10.2%減の369億93百万円となりました。

浴槽・洗面部門では、システムバスルーム「アクリア」および「hairo [はいろ]」が、数量、金額ともに前年割れとなったものの（「hairo [はいろ]」は旧「Lーバス」との対比）、洗面化粧台では、普及品クラスおよび新製

品「Tiaris [ティアリス]」が健闘し、数量で前年同期を上回りましたが、金額では前年割れとなりました。この結果、浴槽・洗面部門の売上高は、前年同期比11.6%減の94億80百万円となりました。



連結財務諸表

■ 連結貸借対照表の要旨

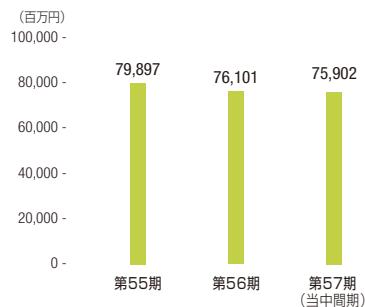
流動資産 流動資産は前期末比2億98百万円増加し481億57百万円となりました。これは主に、売上高の減少に伴い受取手形及び売掛金が17億50百万円減少する一方で、現金及び預金が18億45百万円増加したためです。

固定資産 固定資産は前期末比4億98百万円減少し277億44百万円となりました。これは主に、投資有価証券の増加(4億83百万円)の一方で、減価償却による有形固定資産の減少(4億84百万円)、ソフトウェアの減価償却等による無形固定資産の減少(2億57百万円)があったためです。

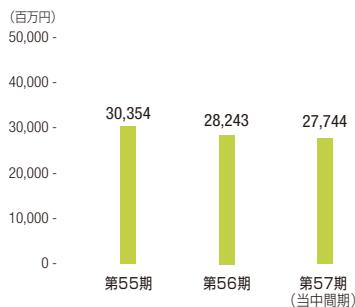
資産合計 流動資産が増加した一方で固定資産が減少したことから、資産合計は前期末比1億99百万円減少し759億2百万円となりました。

	第56期中間 平成20年9月30日現在	第57期中間 平成21年9月30日現在	第56期 平成21年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	51,167	48,157	47,858
現金及び預金	14,961	17,012	15,166
受取手形及び売掛金	24,923	22,351	24,102
その他	11,354	8,841	8,644
貸倒引当金	△ 71	△ 48	△ 53
固定資産	29,649	27,744	28,243
有形固定資産	21,414	19,906	20,391
建物及び構築物	9,677	8,797	9,004
土地	6,634	6,557	6,557
その他	5,102	4,552	4,829
無形固定資産	2,551	2,597	2,855
投資その他の資産	5,683	5,240	4,995
投資有価証券	2,345	2,319	1,835
その他	3,528	3,116	3,372
貸倒引当金	△ 190	△ 195	△ 212
資産合計	80,817	75,902	76,101

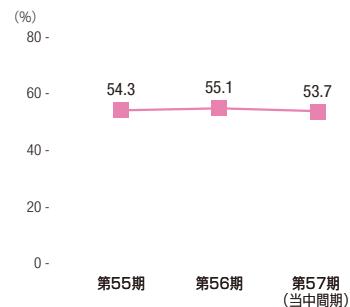
■ 資産合計



■ 固定資産



■ 固定比率





(百万円)

	第56期中間 平成20年9月30日現在	第57期中間 平成21年9月30日現在	第56期 平成21年3月31日現在
(負債の部)			
流動負債	20,416	17,447	18,832
買掛金	7,180	5,829	6,057
その他	13,236	11,618	12,775
固定負債	6,062	6,779	6,005
長期借入金	2,744	3,045	2,496
退職給付引当金	923	1,216	1,022
役員退職慰労引当金	424	424	424
その他	1,970	2,093	2,061
負債合計	26,479	24,226	24,837
(純資産の部)			
株主資本	53,994	51,517	51,220
資本金	13,267	13,267	13,267
資本剰余金	12,351	12,351	12,351
利益剰余金	28,534	26,888	25,994
自己株式	△ 158	△ 989	△ 393
評価・換算差額等	343	157	43
その他有価証券評価差額金	339	155	47
為替換算調整勘定	4	1	3
純資産合計	54,338	51,675	51,264
負債純資産合計	80,817	75,902	76,101

流動負債 流動負債は前期末比13億85百万円減少し174億47百万円となりました。これは主に、買掛金の減少(2億28百万円)、短期借入金の減少(11億90百万円)などによります。

固定負債 固定負債は前期末比7億74百万円増加し67億79百万円となりました。これは主に、長期借入金の増加(5億49百万円)、退職給付引当金の増加(1億93百万円)などによります。

純資産合計 純資産合計は前期末比4億11百万円増加し516億75百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加(8億94百万円)、自己株式の取得などによります。この結果、自己資本比率は前期末比0.7ポイント向上し68.1%となりました。

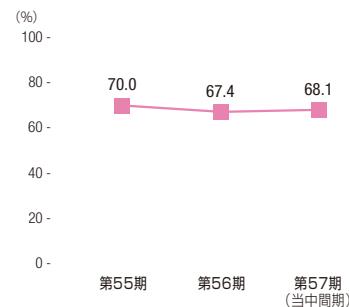
有利子負債



純資産合計



自己資本比率



連結財務諸表

(百万円)

■ 連結損益計算書の要旨

売上高 厨房部門と浴槽・洗面部門の売上高がともに減収となったことから、売上高は前年同期比10.5%減の484億82百万円となりました。

売上原価 減収による売上原価の減少に加え、原材料の値下げや原価低減努力により、売上原価は前年同期比45億39百万円減少し316億69百万円となりました。この結果、売上原価率は前年同期比1.5ポイントダウンの65.3%となりました。

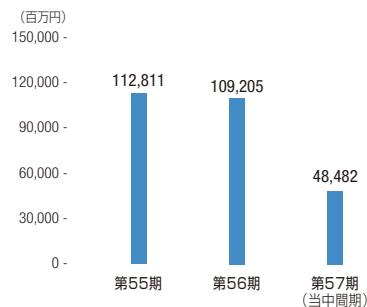
販管費 昨年同期からのテレビCMの中止、展示会出展等販管費の削減、物流費の減少、全社的な経費節減努力などにより、販管費は前年同期比31億40百万円減少し154億50百万円となりました。この結果、販管費率は前年同期比2.4ポイントダウンの31.9%となりました。

営業利益 減収となったものの、売上原価及び販管費の圧縮に努めた結果、営業利益は13億62百万円となり黒字転換を果たしました(前年同期は営業損失6億6百万円)。

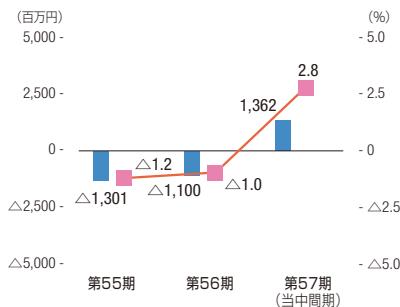
四半期純利益 四半期純損益についても黒字転換を果たし、四半期純利益は11億34百万円となりました(前年同期は四半期純損失10億20百万円)。

	第56期中間 平成20年4月1日～ 平成20年9月30日	第57期中間 平成21年4月1日～ 平成21年9月30日	第56期 平成20年4月1日～ 平成21年3月31日
売上高	54,193	48,482	109,205
売上原価	36,209	31,669	74,655
売上総利益	17,983	16,812	34,550
販売費及び一般管理費	18,590	15,450	35,650
営業利益(損失:△)	△ 606	1,362	△ 1,100
営業外収益	357	279	726
営業外費用	402	363	790
経常利益(損失:△)	△ 652	1,278	△ 1,163
特別利益	0	67	13
特別損失	198	74	850
税金等調整前四半期(当期)純利益(損失:△)	△ 850	1,271	△ 2,001
法人税等	169	136	1,315
四半期(当期)純利益(損失:△)	△ 1,020	1,134	△ 3,317

■ 売上高



■ 営業利益・営業利益率



■ 四半期(当期)純利益・四半期(当期)純利益率





■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(百万円)

	第56期中間 平成20年4月 1日～ 平成20年9月30日	第57期中間 平成21年4月 1日～ 平成21年9月30日	第56期 平成20年4月 1日～ 平成21年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,143	3,692	3,463
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,172	△ 972	△ 2,626
財務活動によるキャッシュ・フロー	144	△ 1,076	△ 507
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	4	8
現金及び現金同等物の増減額	115	1,647	321
現金及び現金同等物の期首残高	16,300	16,675	16,300
連結の範囲の変更に伴う現金及び 現金同等物の増加額	54	—	54
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	16,470	18,323	16,675

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によって得られた資金は前年同期比222.9%増の36億92百万円となりました。これは、税金等調整前当期純利益の増益、売上債権の減少、たな卸資産の減少があった一方、減価償却費の減少、仕入債務の減少等があったことによります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は前年同期比17.1%減の9億72百万円となりました。これは、生産設備の増設および改修に伴う支出、顧客管理システム等ソフトウェアへの支出、投資有価証券の取得等によります。

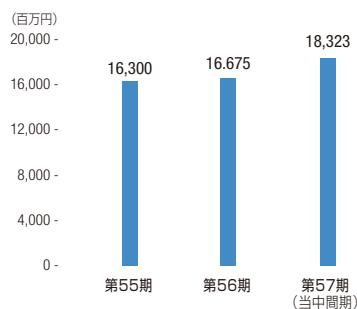
財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は10億76百万円となりました(前年同期は1億44百万円の収入)。これは、長期借入金による資金調達があった一方で、短期借入金による資金の純減、長期借入金の約定返済、配当金の支払い、自己株式の取得があったこと等によります。

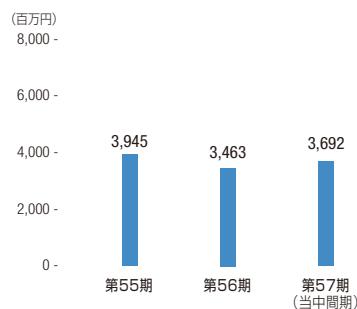
現金及び現金同等物の四半期末残高

これらにより、現金および現金同等物の四半期末残高は、前期末比16億47百万円(9.9%)増加し183億23百万円となりました。

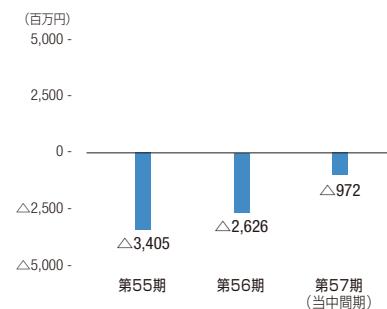
■ 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高



■ 営業活動によるキャッシュ・フロー



■ 投資活動によるキャッシュ・フロー



株主関連情報 (平成21年9月30日現在)

■ 剰余金の配当について

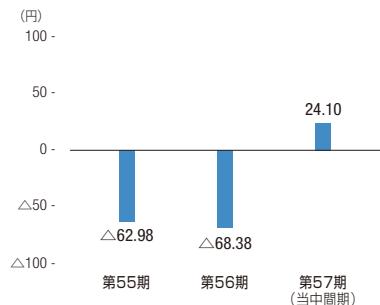
当社は、株主のみなさまに対する利益還元を重要な経営方針の一つと考えております。長期的な安定と成長を実現することにより最大の利益をあげ、安定的な配当を長期的に継続していくことを基本方針とし、概ね30%程度の配当性向を目標としております。

内部留保資金につきましては、新製品生産設備、営業拠点整

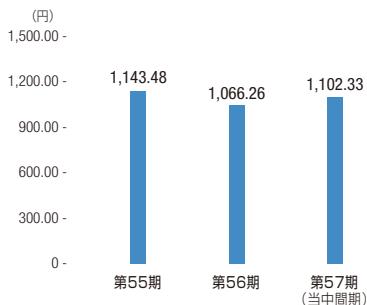
備、情報基盤整備等の設備投資に充て、効率的な経営による収益力の向上と資本効率の向上に努めてまいります。

なお、当期の中間配当金につきましては、1株当たり5円とさせていただきます。また、当期の年間配当金は、中間配当を含め1株当たり10円の配当を予定しております。

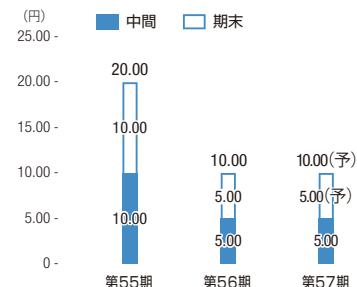
■ 1株当たり純利益



■ 1株当たり純資産

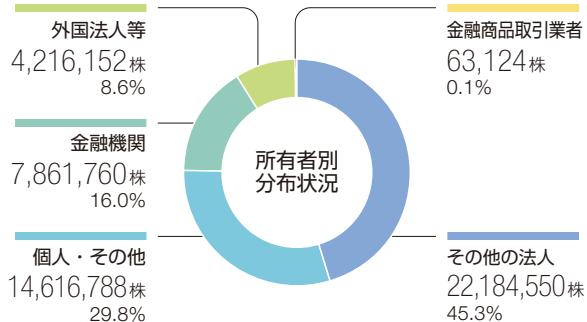


■ 1株当たり配当金



■ 株式の状況

発行可能株式総数	130,000,000 株
発行済株式総数	48,942,374 株
株主数	5,118 名



■ 大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
株式会社井上	12,476	26.6
株式会社タカヤス	6,829	14.5
クリナップ社員持株会	2,422	5.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	2,282	4.8
クリナップ真栄会	1,565	3.3
ダンスケバンククライアントホールディングス	1,295	2.7
クリナップ共進会	1,239	2.6
井上 けよ	1,133	2.4
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,043	2.2
三菱UFJ信託銀行株式会社	693	1.4

注1) 当社は自己株式2,064,386株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
注2) 出資比率は自己株式(2,064,386株)を控除して計算しております。

会社情報

(平成21年9月30日現在)



■ 会社概要

商号	クリナップ株式会社 Cleanup Corporation
本社所在地	〒116-8587 東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
電話	03-3894-4771(大代表)
創業	昭和24年10月5日
会社設立	昭和29年10月5日
上場	平成2年2月6日 東証2部上場 平成3年9月2日 東証1部指定
資本金	132億6,734万円
主要営業品目	厨房機器、浴槽機器、洗面機器、その他
社員数	2,570名
主な事業所	支社：国内1カ所 支店：国内13カ所 営業所：国内133カ所 海外：香港支店、北京事務所 工場：四倉、鹿島システム、鹿島、湯本、クレート (いずれも福島県いわき市)

■ 役員

代表取締役社長	井上 強 一	取締役	鈴木 章
取締役	高嶋 信	取締役	松浦 昌孝
取締役	川合 和夫	取締役	佐藤 茂
取締役	酒井 均	常勤監査役	山根 康正
取締役	加藤 亨一	監査役	猪狩 昌行
取締役	小島 輝夫	監査役	新谷 謙一
取締役	小松 裕恒	監査役	有賀 文宣

注) 監査役 新谷謙一および有賀文宣の両氏は、社外監査役であります。

■ ショールーム (全国105カ所)

札幌支店ブロック	6カ所	静岡支店ブロック	4カ所
東北支店ブロック	13カ所	名古屋支店ブロック	8カ所
北関東支店ブロック	6カ所	京都支店ブロック	4カ所
埼玉支店ブロック	4カ所	大阪支店ブロック	8カ所
東京支社ブロック	16カ所	中国支店ブロック	10カ所
信越支店ブロック	5カ所	四国支店ブロック	5カ所
北陸支店ブロック	5カ所	九州支店ブロック	11カ所

お近くのショールームをホームページでご確認ください。

<http://cleanup.jp/>

※株主・投資家のみなさまに向けたIR情報(決算情報等)を掲載しております。
また、「商品情報」をはじめ、ホットな「新着情報」、さらに「生活情報」なども掲載しております。



■ 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人/ 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
公告方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://cleanup.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(お知らせ)

1. 株券電子化によるご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 配当金の口座振込のご指定につきましても、お手続きは配当金振込指定書を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなりました。振込指定のお手続きにつきましては各口座管理機関にお問合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

2. 配当金計算書について

本年から、配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受取になられる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取になった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

【株式に関するお手続きについて】

■ 特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	特別口座の 口座管理機関	お問合せ先
<ul style="list-style-type: none"> ● 特別口座から一般口座への振替請求 ● 単元未満株式の買取(買増)請求 ● 住所・氏名等のご変更 ● 特別口座の残高照会 ● 配当金の受領方法の指定(*) 	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
<ul style="list-style-type: none"> ● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ● 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ● 株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿 管理人	[手続き書類のご請求方法] <ul style="list-style-type: none"> ● 音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) ● インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/

(*) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

■ 証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	株主名簿 管理人	お問合せ先
<ul style="list-style-type: none"> ● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ● 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ● 株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿 管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
<ul style="list-style-type: none"> ● 上記以外のお手続き、ご照会等 		口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。

ティップ株式会社

キッチンから、笑顔をつくろう

東京都荒川区西日暮里 6-22-22 〒116-8587 TEL 03(3894)4771

